

ステンレス製建具

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和4年版16章6節に規定するステンレス製建具とし、簡易気密型は、対象外とする。

2. 品質・性能等

- (1) 品質・性能について、「評価内容（別紙）」の項目を確認している。
- (2) 主要な資材について、材質および資材メーカーから申請者の製造所への納入ルートを確認している。
- (3) 性能について、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

3. 注意事項

- (1) 標準仕様書令和7年版の改定において、「屋内に雨水浸入のおそれのある接合部には、その箇所に適したシーリング材又は止水材を用いて止水処理を行う。」との規定が追加されたが、確認していない。ただし、変更申請がなされ、確認済みの場合は、「申請者等情報」の欄に特記事項として、“接合部の止水処理有”と表示している。

項目		品質・性能		備考	
材料	ステンレス鋼板	材質	JIS G 4305によるSUS304、SUS430J1LまたはSUS443J1		
		表面仕上げ	HL		
	裏板、力骨、中骨、補強板の類	材質	JIS G 3302		
		めっき付着量	JIS G 3302によるZ12またはF12以上		
	くつずり	材質	JIS G 4305によるSUS304、SUS430J1LまたはSUS443J1		
		表面仕上げ	HL		
	押縁留付け用小ねじ等		ステンレス製		
	構造用接合テープ		JIS Z 1541		
	接着剤		アクリル樹脂系またはウレタン樹脂系の2液型		
形状・仕上げ	鋼板類の厚さ	使用箇所	厚さ(mm)		
		一般部分	1.5		
		くつずり	1.5		
		裏板、力骨、中骨	1.6以上		
		補強板の類	2.3以上		
	製品の寸法許容差・相対する辺寸法の差	対象部位	ドアセットの寸法	許容差(mm)	
		幅および高さ	2,000未満	±1.5	
			2,000以上 3,500未満	±2.0	
			3,500以上	±2.5	
		枠見込	120未満	±1.0	
			120以上 150未満	±1.5	
			150以上 200未満	±2.0	
			200以上	±2.5	
	ガラス溝の寸法、形状等	対象部位	ドアセットの寸法	相対する辺寸法の差(mm)	
		幅および高さの相対する辺寸法の差	2,000未満	2以下	
			2,000以上 3,500未満	3以下	
			3,500以上	4以下	
	外部に面する建具の水抜き孔		網入り板ガラス、線入り板ガラス、合わせガラス及び複層ガラスを受ける下端ガラス溝には、径6mm以上の水抜き孔を2か所以上設ける。また、セッティングブロックによるせき止めがある場合には、セッティングブロックの中間に1か所追加する。		
	異種金属の接触により腐食のおそれのある箇所		接触腐食防止の対策を行う。		

項目		品質・性能	備考
全般	注意点	加工および組立は、以下の内容を標準とし、特に雨仕舞および開閉具合に注意すること。	
	溶接部、隅、角等	組立後、平滑に仕上げること。	
	外観	建具には、使用上有害なきず、欠け、割れなどがないこと。	
	ステンレス鋼板の曲げ加工	普通曲げまたは角出し曲げ	
	角出し曲げ	切込み後の板厚が 0.75mm 以下 の場合は、裏板を用いて補強すること。	
	各部材の組立	水掛けを除き、面内胴付き部を小ねじまたはボルト留めとすることができます。	
加工・組立	枠	隅は、上部は留めとして溶接または縦延ばし胴付き（面落ち可）溶接、下部は胴付きとし、外部に面するものは溶接とすること。ただし、屋内（水掛けを除く。）に使用する建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ 2.3mm 以上）によることができる。	
	くつずり	外部に面するものは両端を縦枠より延ばし、屋内（外部建具の屋内側を含む）は縦枠内に納め、裏面で溶接すること。	
	水切り板	両端は、水返し付き、枠に小ねじ留めまたは溶接とすること。	
	中かもい、無目	両端は胴付き溶接、外部に面する箇所は見え掛けを避け胴付き部を全て溶接すること。ただし、屋内（水掛けを除く。）に使用する建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ 2.3mm 以上）によることができる。	
	方立	両端は、胴付き溶接とすること。ただし、屋内（水掛けを除く。）に使用する建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ 2.3mm 以上）によることができる。	
	額縁、せん板	隅は留めとして溶接または縦延ばし胴付き（面落ち可）溶接とすること。	
	枠類のつなぎ補強板	枠、くつずり、水切り板等の見え隠れ部には、つなぎ補強板を、両端から逃げた位置から間隔 600mm 以下 に取り付けること。	
	金物取合い補強板	枠の丁番、ドアクローザ、ピボットヒンジ等が取り付く箇所には、裏面に補強板を取り付けること。	
戸	かまち	縦がまちと上がまちの取合い	留めまたは胴付きとし、溶接または小ねじ留めとすること。小ねじ留めの場合は、裏面に補強板を当てること。その他は、胴付き溶接とすること。
	中抜き	1枚板を中抜きする場合は、四隅を溶接すること。	
	下がまち	下部を包まず、□形の力骨を通してめ込み、溶接または小ねじ留めとすること。	
	鋼板	力骨および中骨にかぶせ、接合は溶接、接着または小ねじ留めとすること。ただし、中骨は、構造用接着テープによることができる。	
	押縁	小ねじ留めとすること。	
	外部に面する両面フラッシュ戸	下部を除き、三方の見込み部を表面板で包むこと。	
	力骨、中骨	力骨は戸の四周に設け、中骨の間隔は 300mm 以下 とすること。	
	金物取合い補強板	鋲、丁番、ドアクローザ、ピボットヒンジ等の取り付く箇所には、裏面に補強板を取付けること。	

項目		品質・性能	備考
性能	ねじり強さ	開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。	
	鉛直荷重強さ	残留変位が3mm以下で、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。	
	開閉力	戸が円滑に開くこと、また円滑に閉じること。	
	耐衝撃性	1回の衝撃で有害な変形がなく、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。ただし、ガラスの破損は判定に含まない。	
	開閉繰返し性能	開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。	
試験方法	1. ねじり強さ試験は、JIS A 1523による。なお、載荷荷重は200Nとする。 2. 鉛直荷重強さ試験は、JIS A 1524による。なお、載荷荷重は500Nとする。 3. 開閉力試験は、JIS A 1519による。なお、載荷荷重は50Nとする。 4. 耐衝撃性試験は、JIS A 1518による。なお、砂袋落下高さは170mmとする。 5. 開閉繰返し試験は、JIS A 1530による。なお、開閉回数は10万回とする。ただし、ラッチの開閉試験は除く。 6. 試験体サイズおよび形式は、W 950mm × H 2,400mm程度で丁番吊りとし、形式は、かまちタイプのガラス戸とする。ただし、中棧入りも可とする。また使用ガラス厚さは6.8mmとする。		